

# ゴンちゃん モンちゃん

Vol. 2 平成12年 6月 7日発行



## 里山エコスクールin中山の森

～里山林で学ぶ自然と環境と人の知恵～

この事業は(社)国土緑化推進機構の「緑と水の森林基金」の助成を受けて行っています。



### 第2回里山エコスクールの概要

私たちの暮らしをうるおしている水はそのほとんどが降水を源にしています。森に降った雨は地中をめぐって流れとなり、その美しい水が暮らしに欠かせないものになっています。きれいな川や湧き水、井戸水が手にはいるのは自然のフィルターである森の働きによるものですが、その森の働きを知ろうというのが今回のプログラムのねらいでした。

森に降る雨は、葉や幹をつたって地面に流れます。落ち葉や根などでとどまったり、地中に染み込みながらも谷に集まり、その谷がいくつも集まって一つの大きな幹になるように川になっていきます。その“源をさがす”ことと、“森のなりたちを知る”ことをプログラムの柱にしました。



#### \*プログラムの流れ

##### 水源を探せ(午前中)

- ・地図を見ながら谷を探し、地表で水の流れた様子を観察する。
- ・いくつか谷が集まって、少し湿気を帯びている場所を掘って、にじみ出る水を見る。
- ・その水を採取し、透明度やCOD(パックテスト)を調べ、水道水や下流の瀬戸川の水と比べる。
- ・それぞれの値の違いを考察するとともに森の地層を模した簡易式の浄水器を作り、その浄化性能を見る。



##### 森の姿を知る(午後)

- ・森の様子を調べる。任意に選んだ10mのA・Bの地点にある樹木や下草の様子を、位置やその木の高さ、太さ、種類などを計測して記録する。また、A・B地点の地形、高低差を測る。(測り方は4面に)
- ・計測記録をもとに、木の姿も表現するように森の断面図を作る
- ・調べた場所の森の様子をまとめて、森に名前を付けて、グループごとに発表する

ひとつの森のなりたちを今回は“水”を通して考えてみました。森は木が重なり合って空をおおい、地面には前回(第1回)のプログラムで学習したように、落ち葉や根が重なっています。降った雨がその間をぬって、どんなふうに“水”になっていくかを推察できたと考えています。事実、森では降水の90%が地中に浸透していくといわれ、畑などの耕作地の50%、都市部の10%に比べたら圧倒的に水を貯える力があるといわれていますが、それらが上記の森の構造によって作られていることを身をもって確認できました。